

学校安全教育の見直しに関する方向性の検討(改定案)

＜論 点 整 理 ペ ー パ ー＞

官民協議会サブWG（田村チーム）

1 学校安全教育を、企業に入社する前に安全基盤を理解できる人材を育成する目的だけではなく、「地域連携」の一環として広めていってはどうか。

2 「小学校」の生徒に対して可能な学校安全教育の内容として、具体的に何が考えられるか。

A ＜安全訓練・体験の教育＞

- (1) 小さい危険を体験して、「自分の身は自分で守る」習慣をつけさせる。
- (2) 前もって「危険に気付き、予測する」習慣を身につけさせる。
- (3) 安全のルールを守る習慣をつけさせる。
- (4) 避難訓練、防火訓練、防災訓練

B ＜安全知識の教育＞

B-1 ○基本的な安全知識

- (1) 各種の事故例の紹介
- (2) 安全とは何か。

3 「中学校」の生徒に対して可能な学校安全教育の内容として、具体的に何が考えられるか。

A <安全訓練・体験の教育>

- (1) 小さい危険を体験して、「自分の身は自分で守る」習慣をつけさせる。
- (2) 前もって「危険に気付き、予測する」習慣を身につけさせる。
- (3) 安全のルールを守る習慣をつけさせる。
- (4) 避難訓練、防火訓練、防災訓練
- (5) 現物による危険源の同定

B <安全知識の教育>

B-1 ○基本的な安全知識

- (1) 各種の事故例の紹介
- (2) 安全とは何か。
- (3) 安全学を確立する。
- (4) リスクアセスメントとは何か。
- (5) リスク低減のための三つのステップ
- (6) 安全のための技術
- (7) 安全のための人間力
- (8) 安全のための組織・制度
- (9) 企業における安全の確立と信頼の獲得
- (10) 大災害にどう備えるか。
- (11) 安全は誰がどう確保するのか。
- (12) 安全学で未来を考える。

B-2 ○安全の基礎概念

- (1) 安全の意味：そもそも安全とは何か。
- (2) 安全の大前提：人間はまちがえ、機械は壊れるものだ。
- (3) 安全の定義：安全はリスクによって定義される。
- (4) リスクの定義：定義は危害の頻度とひどさで定義される。
- (5) 安全目標：どこまでやったら安全か。
- (6) 安全の基本的構造：何をどうやって何から守るのか。

4 「高等学校」の生徒に対して可能な学校安全教育の内容として、具体的に何が考えられるか。

A <安全訓練・体験の教育>

- (1) 小さい危険を体験して、「自分の身は自分で守る」習慣をつけさせる。
- (2) 前もって「危険に気付き、予測する」習慣を身につけさせる。
- (3) 安全のルールを守る習慣をつけさせる。
- (4) 避難訓練、防火訓練、防災訓練
- (5) 現物による危険源の同定
- (6) 危険体感訓練**
- (7) 緊急時対応訓練**

B <安全知識の教育>

B-1 ○基本的な安全知識

- (1) 各種の事故例の紹介
- (2) 安全とは何か。
- (3) 安全学を確立する。
- (4) リスクアセスメントとは何か。
- (5) リスク低減のための三つのステップ
- (6) 安全のための技術
- (7) 安全のための人間力
- (8) 安全のための組織・制度
- (9) 企業における安全の確立と信頼の獲得
- (10) 大災害にどう備えるか。
- (11) 安全は誰がどう確保するのか。
- (12) 安全学で未来を考える。

B-2 ○安全の基礎概念

- (1) 安全の意味：そもそも安全とは何か。
- (2) 安全の大前提：人間はまちがえ、機械は壊れるものだ。
- (3) 安全の定義：安全はリスクによって定義される。
- (4) リスクの定義：定義は危害の頻度とひどさで定義される。
- (5) 安全目標：どこまでやったら安全か。
- (6) 安全の基本的構造：何をどうやって何から守るのか。
- (7) 安全と価値観：安全には価値観が関与している。**
- (8) 安全における役割と責任：安全の責任は事前の責任だ。**
- (9) 安全と安心：安全と安心は異なる。**
- (10) リスクコミュニケーション：お互いが理解し合う。
- (11) 安全は時と共に劣化する：時代の変化を見落とすな。

5 学校安全教育を進めるに当たっての課題として、アンケート調査では次の事項が挙げられているが、その課題を克服するための方策はないか。

- ① 対応のための人的負荷が大
- ② 安全は、現地現場での教育でなければ理解が進まないと考えるが、安全配慮上、現場での実体験が困難
- ③ 安全に特化した教材を一企業が作成し、実施することは困難